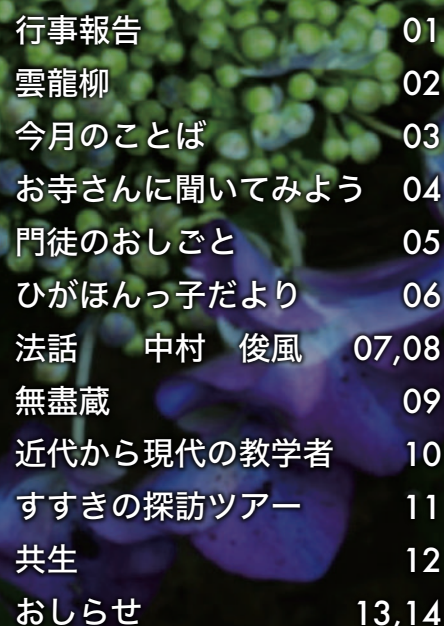




さっぽろ 東本願寺

No.247
2026 7月号

行事報告	01
雲龍柳	02
今月のことば	03
お寺さんに聞いてみよう	04
門徒のおしごと	05
ひがほんっ子だより	06
法話 中村 俊風	07,08
無盡蔵	09
近代から現代の教学者	10
すすきの探訪ツアー	11
共生	12
おしらせ	13,14



行事報告	01
雲龍柳	02
今月のことば	03
お寺さんに聞いてみよう	04
門徒のおしごと	05
ひがほんっ子だより	06
法話 中村 俊風	07,08
無盡蔵	09
近代から現代の教学者	10
すすきの探訪ツアー	11
共生	12
おしらせ	13,14

宗祖親鸞聖人誕生法要・大谷幼稚園花まつり

天上天下唯我独尊

5月1日、札幌別院本堂に於いて「宗祖親鸞聖人誕生法要・大谷幼稚園花まつり」が厳修された。2022年より別院の宗祖親鸞聖人誕生法要に併せて幼稚園の花まつりをお勤めするようになってから今年で5年目となる。法要は午前と午後の2回に分けて行われ、きらびやかな衣装で着飾った大谷幼稚園の園児たちが法要に華を添えた。

本堂の中心に誕生仏を安置した花御堂が設置され、動行中にその周りを園児たちが行進した。動行後には輪番と代表の園児が誕生仏に甘茶をかけ

る「灌仏^{かんぶつ}」が行われ、その後「花まつりの歌」に併せた可愛らしく元気いっぱいな遊戯と「おしゃかさまの歌」が披露された。

参詣した保護者からは「お寺の法要に足を運んだのは初めての経験だったが、こうした伝統的な行事を通して、自分もまた改めて仏教を知ろうと思った」という声もあった。

宗祖の誕生法要や幼稚園の行事を縁とし、普段仏事に関わりの薄い層にも「仏の教えを広く伝える」という寺院の役割を果たせたのではないだろうか。



▲大谷幼稚園と合同開催



▲園児による灌仏



▲「花まつりの歌」遊戯の様子



▲仏連花まつり 白象パレード



▲講演をする家田莊子氏

5月9日、「札幌市仏教連合会主催の花まつり」が札幌別院にて催された。

当日は毎月8日に開かれている「ひがほん暮らしの朝市」が臨時の連日開催となり、お買い物物をされた方に札幌連オリジナルエコバッグが配布された。また、朝市や法要に参加した人には受付にて甘茶が振舞われた。

今回、数年ぶりにパレードが復活し、あいにくの雨のため屋内での行列となったが、白象の模型を先頭と

して楽人、稚児^{ちご}、様々な宗派の僧侶達が列を成して歩く様子は、大変賑やかであった。また、式典では各宗旨の代表らが、仏教讃歌の調べの中、花御堂に設置された誕生仏に甘茶をかけ、お釈迦さまのご誕生をお祝いし、その後の講演会では僧侶や作家として活躍する家田莊子氏の講演があった。

この花まつりを通して集まった多くの人々が宗派の垣根を越えて親交を深める機縁となった。

札幌市仏教連合会花まつり開催

本山奉仕団旅行

6月8日から10日（2泊3日）の日程で現来寺支院5名が真宗本廟奉仕団として上山した。

初日は観光として嵐山から龍安寺にかけて京都市左京区の寺院、そして西本願寺を参拝した。2日目より本山の同朋会館に入館し、奉仕団の結成式が行われ、参加者一同、親鸞聖人の御真影の前に心新たに静かに手を合わせた。その日行われた清掃奉仕では飛地境内である渉成園に向かい、草刈り、落ち葉拾いを行った。園内を見学した後、会館に戻り夕事勤行、講義、座談を行った。次の日は午前7時からの晨朝参拝、講義、座談、諸殿参拝と日程を過ごした。

拝観では御影堂門に案内され、普段目にするこのない門上に安置されている釈迦三尊像を参拝することができ、また門下に広がる本廟伽藍の壮大さと市内の景色に皆心を奪われた。かねてより本山奉仕の希望の聲が挙がっていたこともあり、今回の奉仕団旅行は有意義な時間を過ごせた旅行であった。



▲真宗本廟にて記念撮影



▲座談会の様子

永代経・門徒物故者追弔法要厳修

6月20日・21日の二日間にあたり「札幌別院永代経法要並びに門徒物故者永代経法要」が厳修された。

この法要は従来春秋の彼岸会に併せて行われていた永代経法要と7月の創立記念法要に併せて行われていた門徒物故者追弔法要を合わせた法要であり、現在札幌別院で行われている年中法要の中では報恩講に次ぐ規模の法要となっている。

今回追弔の対象となった物故者は2024年4月から2026年3月までに亡くなった821名で法名を本堂に掲示し、当日持参された法名札は永代経と共に法名余間に安置された。

講師には神奈川県真照寺の雲井一久氏を迎え「南無阿弥陀仏く信心の内景く」の講題で法話を頂戴した。

この法要には延べ150名ほどが参詣し、亡き人をご縁として聞法に励んでいた。

おあさじ50日参拝運動を始めます

7月1日から10月31日の4カ月間、午前6時30分から本堂において「おあさじ50日参拝運動」を開催します。おあさじ（朝の勤行）は真宗門徒にとつて大切な仏事になります。是非この期間、職員と共に勤めをいたしましょう。

また、お勤め後には職員による「三三法話」がありますので耳を傾けてください。

※スタンプリー…50個集めると参拝記念品を贈ります。

呈します。

雲龍柳

うんりゅうやなぎ

今年は夏の訪れが早く一段と加速し、真夏日が随分早くから我々を悩ませている。過日、快晴の日に積丹へ出かけた。神威岬に尾根を片道20分ほど、ゆっくり歩いて辿り着いた。海の青さと空の青さ300度を超える眺めに魅了され心奪われた。積丹ブルーと言うそう。日常がいかに自然とともにあるいのちを見失っているのかと思ひ知らされた▼過日『百年の挽歌』（青木理著）を読んだ。2011年東日本大震災後、飯館村の102歳の古老が自死に至った話で、テーマは、原発・戦争・美しい村である。土と人が結びついた暮らしを原発事故によって断ち切られた人々の喪失、国策、時代に翻弄された人々の姿、歳月をかけて育まれた人々の大切な共同体の破壊、何と近代文明は人心の深い要求を抹殺し見えなくしているのか。古老は「ちいっと少し長く生きすぎたな。いやなものを見ちまった」と漏らしている▼政治のことがいつも気になっている。高市政権は、唐突と思える国旗損壊罪法制化を進めている。「表現の自由・思想・良心の自由」を侵害する恐れがありはしないか。愛国心の醸成につながるという表向きの大義は怪しくないだろうか？それぞれが国家観や人生観は存在してもいいはずだ。違いがあるからこそ民主主義の意義・対話が大切なのだとつくづく思う▼別院境内は、緑が多くビオトープもあり時にはカモが飛来し、実に心地よい空間である。狂暴なカラスが鳴き、蟬もなきはじめ、花々が咲き誇り自然の生命が躍動している。喧騒と雑踏から離れ、静寂を慕い我欲から解放された気になるのもいいものだ。

（坂）

今月のことば

● 花びらは散っても
花は散らない
● 形は滅びても
人は死なぬ

私の妹は2年前の4月にガンで亡くなりました。抗がん剤が効いて希望が持てた時期もあったのですが、転移が見つかったからは治療の効果があまり出なくなってしまいました。妹としても、辛い治療をしても効果が出ない苛立ちや、もう治らないかもしれないという焦りがあったのでしょう。母親が何気ない会話の中で発した「お母さんも年のせいか、膝やら背中やら痛くてね…」という言葉に、「私の前で年の話をしないで!」と妹が怒ったことがありました。

世間一般に老いや老化は嫌なこと、ダメなこととして受け止められています。しかし妹にとっては老いることも羨ましいことだったのです。私も40歳を過ぎ、白髪が増えたり、肩こりに悩まされたりすることが増えてきました。妹の一言があるまでは「嫌だなあ」としか感じていませんでしたが、その一言を聞いてからは「そうなる年齢まで生きることができた証なんだよな」という受け止めが

生まれました。私が今後どれくらい長生きできるかは分かりませんが、新たな老化現象が襲ってくることもあるでしょう。その度に「お兄ちゃん、その年齢まで長生きできたんだね、良かったね」と妹が私の人生を励まし続けてくれるような気がしています。

花びらが散っても花が咲いていたという事実は無くならないように、人間としての姿かたちが無くなっても、その人が生きたという事実は無くなりません。亡くなった人とはもう言葉を交わすことはできませんが、思い出や記憶の中から私たちを教え導き続けてくれるということがあるのだと思います。

道房 潤



お寺さんに

聞いてみよう！

敷居が高い？



お寺の中に自由に入っても大丈夫なのでしょうか。

A.

確かにお寺は大きな伽藍が建てられている上に、塀に囲まれているので、敷居が高く感じ、中に入ること躊躇われる方もおられるかもしれません。しかし札幌別院では門が開いている時間帯であれば自由に参詣して頂くことが出来ます。観光寺院ではありませんので、拝観料が必要ということもありません。

門を潜りますと都会にありながら四季を感じられる広い境内、また会館にはゆっくりと時間を過ごしていただけるカフェスペースなどがあります。また近年では伝統的な法要を勤める他に地域コミュニティの場として「ひがほん暮らしの朝市（毎月2回開催）」や秋には「祖徳讃仰のつとコンサート」等のイベントを開催していますので、それをきっかけに初めてお寺に入ったという方も増えているようです。

皆様お寺に来られる目的は様々でしょうが、その際には是非本堂に足を運びお参りして頂きたい

ものです。真宗寺院の本堂内の正面は内陣といい中心に御本尊である阿弥陀如来像が安置されています。内陣は金箔や漆等でしつらえられ、お花等で煌びやかにお飾りされ、阿弥陀の仏国土である極楽浄土が表現されています。

また真宗寺院の本堂は内陣よりも参詣の間が広いという大きな特徴があります。それは本堂のことを「聞法道場」と言い表すように、阿弥陀仏の一切衆生を救わんとする願いを多くの方々と共に聞き頂いていきたいという願いのもと本堂が建てられているからです。

このように本来真宗寺院は地域の方々とつながり、共にお念仏の教えを学んでいく場ですので、ぜひお気軽にお入りください。





望月祥弘社長

札幌硝子株式会社

〒003-0807 札幌市白石区菊水7条3丁目7-12
電話：(011)811-7780

門徒のおしごと

札幌硝子株式会社

札幌硝子株式会社は、窓ガラス・玄関ガラス・鏡の販売・加工・施工を専門とする会社である。札幌市内の小中学校のガラス修繕も承っており、地域社会の安全と快適な環境づくりに貢献している。近年では、防犯対策や安全対策を目的としたガラスフィルムの施工依頼も増加傾向にある。今年で創業65年になる会社は1961（昭和36）年9月、札幌市白石区菊水4条3丁目の地で「札幌硝子店」を開業したことに始まる。1972（昭和47）年には現在地へ移転し、翌年には法人化し「札幌硝子株式会社」として新たなスタートを切った。2代目の望月祥弘氏は、1992（平成4）年に先代の父から会社を引き継ぎ、代表取締役として経営を担っている。望月氏は、ガラス施工とサッシ施工の一級技能士の資格を持ち、長年にわたり技能検定委員として技術者の育成に貢献している。また、北海道板硝子商工協同組合の専務理事も務め、業界の発展にも尽力し、その経験と技術を活かし、後進の育成にも積極的に関わり組んでいる。ガラスやサッシに関することなら、どんな些細なことでもお気軽にご相談していただきたい。



会社の奥にある工場には、様々な種類の板ガラスが保管されている



大谷オアシス保育園

春の円山登山

年長の子ともたちは、毎年2〜3回「円山登山」を行っています。本園では、保護者の方にも自由参加で登っていただき、子どもたちの成長と一緒に見守っています。

今年度1回目の春の登山は、予定していた日が雨で登れず、予備日に登ることになり、10名の保護者の方に参加いただきました。

ほとんどの子どもたちが初めての登山体験で、保護者の方の力も借りながら子どもたちのペースでゆっくりと登り、山道ではアカゲラが餌を採るために開けた木の穴を観察したり、カタツムリやゾウムシを見つけたりすることができました。

木の根っこが多い場所やぬかるんでいる場所などを歩いていて危険な場所があると、子どもたち自身で「転びそう、滑りやすそう」と気づき、自分よりも後ろの友達に伝えてくれる子もいました。

中間地点で少し休憩し、また歩き始めると「疲れた」と言う声も少し聞きましたが、自分の力で頂上まで全員登ることができました。頂上に

ガひわちゃんのゆる〜い日常



第10話

バカンス



到着すると、自分たちの立っている場所よりも高いものがないことに驚いた表情をし、「僕の家見えるかな?」「札幌ドームが見えるよ!」「ヘリコプターが飛んでいる」など目を輝かせながら札幌の景色を一望していました。下山の最後にイモムシも発見し、掌にのせて観察することができました。帰りの挨拶をするときは、どの子も達成感いっぱい笑顔になっていました。



認定こども園大谷オアシス保育園

園長 信山 祥子

法話

浄土真宗、今、私が生きる教え

春季彼岸会・永代経法要ということでご縁をいただいております。この法要は自らの生きる方向を明らかにする集いであり、そのためにお経に説かれている仏の教えを聞かんとする集いであると教えられてきました。もしくは今あなたは何を大事にして生きているのかということが明らかにされるということでもあります。彼岸という言葉の対義語は此岸という言葉です。此岸とは私たちがまさに今身を置いているところです。生涯において悩み苦しみを抱えながら生きている私たちの在り方を明らかにするために願われ続けている世界が実は彼岸ということなのです。また、彼岸とは浄土と同じ意味です。つまり浄土からはたらきかけてくださる願いに対して私たちの生き方がはたして釣り合っているのかいないのかということを確認める大切な仏事なのです。

呼びかけ

昨年、大腸憩室炎という病気で入院しました。3日間絶食、それ以降は10日間点滴という療養期間でした。絶食中も点滴で栄養分を入れられているので不思議とお腹は空かないのですが、早く食べられるようになりたい気持ちで一杯でした。その後ようやく絶食期間が

終わって、待ち望んだ食事が始まりました。でも食事と言っても重湯です。お米も味噌汁もおかずも全部液体でした。味付けも塩だけです。ふりかけくらい欲しいなと思いましたがね。正直美味しくは感じなかったのです。液体ですから一口で飲んでしまえばいいのに、これがぐっといけないんです。喉を通ってもすぐに胃が痛くなって全く食べられませんでした。3日間の絶食で胃の機能が弱まっていたのです。その時に「あなたは病人なんだ」と体から言われているように感じました。さらに言えば「病人になりきれないあなたの意識の方が、実はその病気よりもよほど厄介なものを抱えているのではないのか」と言われているようにも感じました。真実の方から聞こえてくるということがあるのです。

もう一つ思いがけないところから考えさせられたことがあります。私には今度小学生になる娘がいます。娘は私が晩酌している時に一緒にカルピスを飲みながら、おつまみを食べるのが好きなんです。私に余裕がある時は「一緒に食べよう」と言えますが、論文を書き上げないといけない時がありましてね。追い詰められていて、夕方に仕事から帰ったらすぐ書斎に入って勉強していました。そんな時に娘が「おつまみパーティーしよう」と言って書斎に来たんで

す。でも余裕がなかったので「お父さん忙しいからまた今度ね」って断ったんです。すると娘から「かわいいそんな男」と言われました。この言葉がかなり心に残りましてね。ずいぶん言葉を知っているなとも思いました。でもどういう真意で娘は私に言ったのかと考えたのです。

まず思い浮かんだのは、大好きなお酒を飲む時間もなく、忙しく仕事と勉強をしてかわいそうだということです。でもさらに考えた時、娘の「かわいいそんな男」という表現には、実は「虚しく生きていませんか」という背景があるのではないかと思ったのです。虚しいという言葉を娘は知りません。でも、自分の知っている言葉の中で虚しいということを「かわいいそんな男」と表現したのではないかと思いました。

私は「忙しい」と言って娘の誘いを断ったわけですが、以前、忙しいということは、人間として本当に大事にすべき心をなくすということだと教わったことがあります。または「忙」という字の心を下に置くと「忘」です。本当に大事なことを忘れるということにもなります。本当に大事なことを忘れてしまうことは、人として生まれてきた私の人生というものを虚しいものにしてしまうのではないかと思ったわけです。

目覚め

真実はずっと私を「呼びかけ」続けています。けれどもそのことに私が気付くかどうかということなのです。私たちの見方は見たいものだけ見て、見たくない

ものには目を塞ぐような見方です。あるいは自分が正しくて、他の人が間違っているのだと、どこまでも自分を正当化していくような考え方しかできません。私自身がそういうものを抱えているということを知られることが「目覚め」なのです。そのためには「聞く」ということが大事です。ご門徒さんを法座にお誘いすると「信心深くないから」と言って断られたことがあります。でも信心深くないからこそ、お寺に行かないといけないのではないのでしょうか。その一人が私なのです。他者との接し方、自身の姿勢に「まことのこころ」とは言えない私の在り方に「呼びかけ」続けられている仏の教えをいただき聞き続けていく集いが春季彼岸会・永代経法要なのではないかと思っています。



中村 俊風（なかむら しゅんぷう）

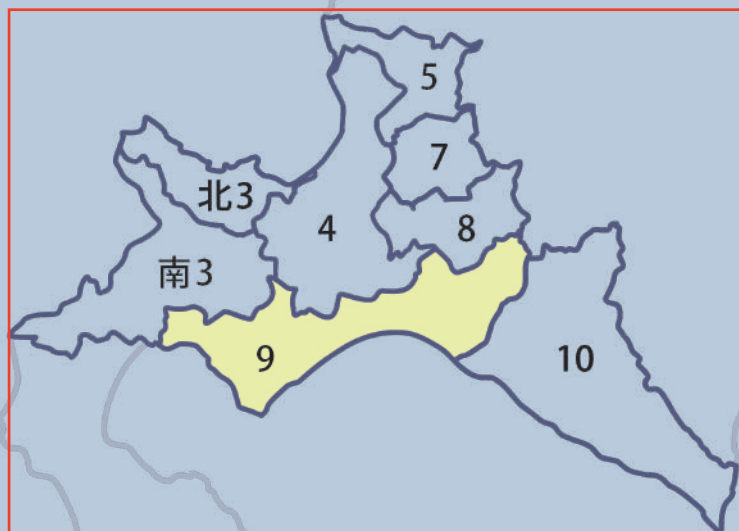
河西郡芽室町 廣證寺

本稿は2026年3月の北三条支院

「春季彼岸会・永代経法要」の法話要旨です。

無盡蔵

崇敬区だより



青年の集い in 陽願寺

「一ヶ寺一青年会の願いのもと開催」

2026(令和8)年5月16日、苫小牧市陽願寺を会所として、第9組教化委員会青少年部門が主催する「青年の集い in 陽願寺」が開催された。この事業は、組内寺院を会場に、「一ヶ寺一青年会」の立ち上げを願い、毎年行われているものである。今年は大人25名、子ども15名の計40名がお寺に集った。

開会にあたり、第9組青少年部門チーフの古卿自然氏は挨拶の中で、今事業を通して仏の教えに出会い、今一度立ち止まってみる時間にしてほしいと、開催の願いを参加者に向けて述べられた。

ご法話には、第4組照道寺ご住職の曾我朋寛氏にご出講いただき、「お寺ってどんなところ？」という講題で、丁寧で分かりやすいお話をいただいた。なお、大人が聴聞している間、子どもたちは寺院内を



探検しながらレクを楽しんだ。全員が合流した後の和菓子作り体験では、皆苦戦しながらも、それぞれに花や動物の形を丁寧に作り上げていった。完成後は引き続き「おやつタイム」を設け、自身で制作した和菓子を味わいながら、参加者同士が交流を深めた。さらに日程の最後には、大人と子どもが入り混じった「モルック大会」が行われ、大盛り上がりの中、全日程を終了した。

今回、私はスタッフとして企画段階から参画したが、多忙な青年世代に対する参加奨励の難しさを改めて実感することとなった。しかしそのような中で、私の同級生が参加してくれたことは大きな喜びであった。大切な友人がお寺に足を運び、私と共に仏法を聴聞する時間を共有してくれたことに深く感謝するとともに、青年世代が集える環境を整え、参加者と共に自分自身が開法していく場を設けていくことが、真宗の僧侶としての歩みであると改めて深く味わわせていただいた。



第9組

陽泉寺 出雲路修一

専修念仏の人

たけなか ちしゅう

竹中 智秀

竹中智秀は昭和から平成に活躍した僧侶であり、真宗教育者である。独特な語り口調と、如来への信頼から発せられる慈悲深い言葉をもって、多くの念仏者を生み出した人物である。如来の摂取不捨の心を「えらばず・きらわず・見すてず」という平易な言葉で表現した人物として有名である。



竹中 智秀（本山より提供）

時代の中で

昭和7年、兵庫県市川町の光圓寺に後藤家の三男として生まれた智秀は、9歳で父洪然と死別し、戦時戦後の厳しい環境の中、母チヨノに女手一つで育ててもらった。飢えの中、母が自分の食べる分を差し置いて、智秀ら兄弟の為に作ってくれた「すいとん」が人生で一番美味しいものであったと述懐する。

大谷専修学院

昭和33年、26歳の時に大谷専修学院へ入学する。同年、後に「学祖」と称される信國淳が学院長として赴任したことが智秀の人生を大きく変えた。淳を師事し、卒業後も職員として学院づくりに尽力し、最後は学院長として還浄を迎えるまで生涯をかけて学院に奉職するのである。

智秀の結婚観

昭和41年、お見合いで出会った竹中節子と結婚した智秀は、大阪市の定久寺へ入寺し竹中姓となる。後年、学生から結婚観について尋ねられた智秀は「誰とでも結婚できるように自分の中の決心は定まっていた時、たまたま縁があったのが家内であり、私の方は誰でもよかったんです。(略文)」と語った。一見冷たい物言いにも取れるが、これは無条件の出会いであることを肝に銘じる為の言葉である。相手に条件を求めれば叶わない現実の前に関係は破綻するが、念仏の中で愛を深め、今でも大恋愛中だと語った。

寮が燃エタ

同年、学寮で火災が発生した。そのことを智秀は学院機関紙『願生』の編集後記に記し、大きな問題となる。「寮が燃エタ。燃エル縁が熟シテ燃エタ。コンナニアザヤカニ燃エルトハ誰モ考エナカッタダロウ。(略文)」これが本山の目にとり、呼び出された挙句、こっ酷くお叱りを受けることとなった。この文章は学院における伝説的逸話として『選集』にも収録されている。

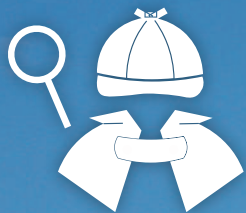
真宗と世俗の狭間で

智秀の功績として大きなものは、日本の習俗観や国家観、更には儀式観に至るまで、真宗と世俗との緊張関係に踏み込んだ問題を積極的に提起した事である。智秀は一貫して「日本人としての念仏者なのか」それとも「念仏者としての日本人なのか」という、真宗人の立場を顕らかにする為に声を挙げた。現在を生きる我々こそが聞き取っていかなければならない大切な問いかけを遺していかれたのである。

竹中 智秀 (1932～2006)

兵庫県市川町に生まれる
大谷専修学院卒業
大阪教区定久寺に入寺
大谷専修学院学院長就任

著 / 教区駐在教導・宇都宮 力



すすきの探訪ツアー

明治5年7月。薄野遊郭へ向かう芸娼妓を乗せた貨客船が横浜港を出航した。開拓使判官・岩村通俊は、困難を極める北海道開拓には「女の長い髪」が必要だと考え、前年に薄野遊郭を開設し、翌年には御用遊女屋「東京楼」を誕生させた。

北を目指した大有丸と横浜丸には、官吏や人夫約二百人に交じって、五十四人の女性たちが乗せられ、小樽港へ上陸した。記録によれば、その一部は新開地として賑わい始めた室蘭港へ転売されたという。

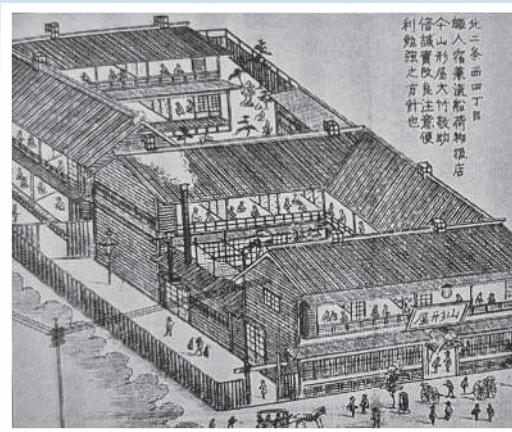
当時の北海道には、二つの「札幌通」があった。一つは現在の札幌・北三条通。もう一つは、室蘭の札幌本道沿いにあった。その道の先に、北海道の未来へ思いを馳せた兄弟がいた。

兄の本多新は、室蘭の「札幌通四十三番地」で旅人宿を営み、明治17年、仲間らと連名で札幌―室蘭間鉄道建設の建白書を政府へ提出した。

彼らが訴えたのは「道」の力だった。人民が衣食できるのは産業があるからであり、その発展には交通の便が欠かせない。室蘭と札幌を結ぶ鉄道は、地域の利益ではなく、北海道全体の発展につながる。それは、自由民権家・本多新が描いた北海道の未来像でもあった。



▲室蘭郡札幌通四十三番地 本多新：
『北海道立志図録』（明治23年）所載



▲札幌山形屋旅館：『札幌区実業家案内双方』（明治26年/新札幌市史第3巻）所載



▲札幌駅前通

弟の大竹敬助は、札幌駅前・北二条通で旅館「山形屋」を営み、汽船荷物扱店も兼ねていた。山形屋は政財界人が集う北海道屈指の宿として知られた。札幌駅前から室蘭の札幌本道へ。一本の道が、人脈や経済、近代化の熱を運んでいたのである。

民権の声が高まる陰で、人権を奪われた人々もいた。政府は国事犯を北海道へ送り、囚人労働によって道路建設や開拓を進めていた。また、交通網の拡大とともに、女郎たちの人身売買も広がっていった。

札幌と室蘭を結んだ道は、北海道近代化の夢と代償、その両方を静かに語り続けている。



アイヌ民族文化財団

理事長 常本 照樹



共生

2023年9月号から始まったコラム「共生」は、今回で完結です。3年の長きに亘るご愛読に心から感謝申し上げます。イヤイライケレ（ありがとうございます）。

筆者は真宗の教えには不案内ですが、真宗における「共生」の理念とアイヌ施策の基盤であるアイヌ施策推進法（2019年、以下、推進法）にいう「共生」には、同等の尊厳を持つ存在として、互いの差異を認め合い、共に生きる社会を目指すという点で強い共通性があるのではないのでしょうか。

また、親鸞聖人の「御同朋」は、阿弥陀仏の光の前ではあらゆる社会的地位や身分の違いを超えて「すべての人間は等しく平等である」と説いておられ、推進法は、少数者であるアイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。どちらも社会における多数者や権力者が優位に立つのではなく、個々の人間や民族が持つ固有の尊厳を等しく認め合うことを共生の前提としているようです。

仏説阿弥陀経には「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」という言葉がありますが、これは、浄土に咲く蓮の花が、それぞれ異なる色で、その色そのままに光り輝いているように、他者を自分と同じ色に染める（同化する）のではなく、一人ひとりの個性を尊重すべきことを表していると解されます。推進法も、北海道旧土人保護法などに見られた同化政策への反省に立ち、文化の多様性を尊重することの大切さを謳っています。

ウポポイは、このような推進法の下でアイヌ施策の「扇の要」として設立されました。皆様もウポポイが目指す社会に、あらためて思いを致していただければ幸いです。最後に、6月から10月までの毎週末、札幌とウポポイを結ぶ直行バスが運行されます。ウポポイHPをご覧ください。では、ウポポイでお待ちしております！

ウポポイを気軽にたっぷり楽しむバスプラン

ウポポイ

[民族共生象徴空間]

満喫直行バスツアー

夏・秋の週末 & お盆期間 限定運行

運行期間／2026年
6月6日(土)～10月31日(土)の土・日・祝日、
8月10日(月)・12日(水)・13日(木)・14日(金)

前日(20時)までの
お申し込みOK!

& 1名様以上で催行!

※満員の場合はご利用できない場合がございます。

▲直行バス

年間行事表 7～9月

7月		8月		9月	
1日(水)	暁天講座 6:30～ 本堂 尾畑文正(名古屋 泉称寺)	1日(土)	山鼻支院婦人会定例 13:00～ 別院職員	1日(火)	山鼻支院婦人会定例 13:00～ 亀谷 哲(余市町 即信寺)
2日(木)	暁天講座 同上 札幌婦人会定例 13:00～ 研修室 尾畑文正(名古屋 泉称寺)	2日(日)	札幌婦人会定例 休会	2日(水)	札幌婦人会定例 13:00～ 研修室 黒萩貴仁(蘭越町 法誓寺)
3日(金)	暁天講座 同上 現来寺支院婦人会定例 同上	3日(月)	豊白支院婦人会定例 13:00～ 別院職員	3日(木)	豊白支院婦人会定例 13:00～ 亀谷 哲(余市町 即信寺)
4日(土)	東西二人会(落語) 開場13:00 開演13:30～ 大谷ホール	4日(火)	北三条支院婦人会定例 同上	4日(金)	北三条支院婦人会定例 同上
5日(日)	北三条支院婦人会定例 同上	5日(水)	円山支院婦人会定例 同上	5日(土)	円山支院婦人会定例 同上
6日(月)	円山支院婦人会定例 同上	6日(木)	北支院婦人会定例 同上	6日(日)	北支院婦人会定例 同上
		7日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員		
8日(水)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 開基現如上人御命日法要 13:30～ 本堂 館 行成(別院職員)	8日(土)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 開基現如上人御命日法要 13:30～ 本堂 佐竹 祐(別院職員)	8日(火)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 開基現如上人御命日法要 13:30～ 本堂 駒田健治(別院職員)
10日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員				
11日(土)	ひがほん子ども夏まつり 13:00～15:30 大谷ホール・ロビー			11日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員
12日(日)	大谷婦人会定例法座 13:00～ 本堂 武田龍太郎(当別町 大成寺)	12日(水)	大谷婦人会定例法座 休会	12日(土)	大谷婦人会定例(報恩講)法座 13:00～ 本堂 金石晃陽(蘭越町 光福寺)
		13日(木) 14日(金) 15日(土) 16日(日)	孟蘭盆会 13:30～ 札幌別院本堂	13日(日)	仏教講座「亡くなるということ」 14:00～ 大谷ホール 驚嶺彰宏(本山青小幼年センター)
18日(土)	親鸞講座 15:00～ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)				
19日(日)	仏教講座「葬儀にまつわるウソ、ホント」 14:00～ 大谷ホール 中島浩盟(極楽堂はなや)				
		20日(木)	お焚き上げ法要 14:00～ 本堂	20日(日)	秋季彼岸会 13:30～ 本堂 小川如俊(江別市 大恩寺)
		21日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員	21日(月) 22日(火)	
		23日(日)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内	23日(水)	秋季彼岸会 13:30～ 本堂 酒井 智(南富良野町 恵光寺) ※無量寿堂総経 (動行後、無量寿堂に於いて)
24日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員				
				25日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員
26日(日)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内			26日(土)	親鸞講座 15:00～ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)
27日(月)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30～ 本堂 皆田法士(札幌市 清風寺)	27日(木)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30～ 本堂 吉田敦史(恵庭市 島松寺)	27日(日)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30～ 本堂 佐々木順道(名寄市 高德寺)
28日(火)	同上	28日(金)	同上	28日(月)	同上

永代経・寄贈披露

尊い浄財及び寄贈を賜りました。
ここに披露申し上げます。

○永代経

【本院】

中田 隆博 様 中央区 瀬川 晴美 様 中央区
小川 滋夫 様 中央区 山田 哲也 様 中央区
海保 富江 様 江別市

【円山】

倉下 征子 様 中央区

○寄贈

【本院】

藤田 道美 様 七条袈裟一式

団体参拝

お参りいただきありがとうございました。

5月10日 即信寺婦人会 様
5月20日 東京独立寺院連絡会 様
6月16日・22日 本山本廟部 様



表紙紹介

Title 彩られて(共和町)
Photo 菊池 恵子

うらばんえ 盂蘭盆会

◆日にち: 8月13日(木)~16日(日)

◆勤行 午後1時30分~

◆場所: 札幌別院本堂

※ご法話はありません。

お盆参りの際は、本堂のご本尊にも手を合わせましょう。

「お墓・納骨壇管理志」は郵便振替用紙を郵送致しますので、そちらをご利用下さい。
また、期間中は特にお昼前後が混み合いますので、ご留意下さいますようお願い申し上げます。

秋季彼岸会

◆日にち: 9月20日(日)~23日(水)

◆時間: 全日13:30~

◆場所: 札幌別院本堂

講師: 20日~22日 小川如俊(江別市 大恩寺)

23日 酒井 智(南富良野町 恵光寺)

▶無量寿堂総経 23日 勤行終了後 無量寿堂に於いて

無量寿の会

札幌別院にて毎月2回13時から
お寺で俳句を詠んでいます
講師 荒船青嶺先生に教わります

札幌別院機関紙 令和8年7月掲載句

泣砂に白靴 一步二歩三步	蒼天に白靴 かさまに干しぬ	吊橋の先ゆくひとの靴白し	突き刺して団地の窓の鯉のぼり	白靴やあひにくの雨けんけんば	金浦 乗
置田 正子	増田 植歌	鳴兎 正吉	目加田 懋		

テレホン法話 (011)511-1313

7月前半 領いて生きる

竹内 彰

7月後半 愚禿親鸞

飯尾 哲也

8月前半 思いやる心

北 秀継

8月後半 わがまま

阿部 正信

『つきあかり 東別院テレホン法話集』より

編集後記

先日、愛車の定期点検の為にディーラーを訪ねた。車を預けて待合所でスマホをいじって時間を潰している。事務の女性が深刻な顔で話しかけてきた。何か車に故障でも見つかったのかと身構えたがどうやらそういう訳でもなさそう。彼女が言うには、通常は点検メニューにエンジンオイルの交換が含まれるのだが、昨今のイラン情勢によるホルムズ海峡封鎖の影響でエンジンオイル入荷の目途が立たない。今回の交換は見送らせて欲しいとのことだった。不安定な世界情勢の影響が身近にも迫ってきたことに何とも言えない不安を感じた。

思えば私が当たり前のように消費している物の多くは海の向こうから途方もない距離と行程を経て私の手元にやってきている訳で、それは決して当たり前なことではなかったのかもしれない。

世界中が物流やネットで繋がって相互関係する現代、遠い外国の地での戦争であっても私にとって無関係ではないということに突き付けられた気がした。

(超)



<https://ohigashi-sapporo.jp>



東本願寺 札幌別院

〒064-0807 札幌市中央区南7条西8丁目290
TEL.011-511-0502
E-mail. ohigashi@abeam.ocn.ne.jp

地下鉄南北線「すすきの」駅で下車
→市電外回り「東本願寺前」徒歩1分

WEBは▶
こちらから



LINEスタンプ



さっぽろ東本願寺 2026 7月号No.247
(発行人) 真宗大谷派札幌別院
(代表者) 坂田智亮